

## 平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅡB (SeminarⅡB) 【泉ゼミ】			授業コード	E002576
担当教員名	泉 丙完			科目ナンバリングコード	E21202
配当学年	2	開講期	後期		
必修・選択区分	必修	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	教わるだけでなく、自ら調査し問題を発見、解決案を提案できること。				
受講心得	講義には必ず出席すること 活発に討議や発表に参加すること				
教科書	配布資料				
参考文献及び指定図書	藤木健三「技術経営入門」(日経BP社) 泉田良輔「日本の電気産業」(日本経済新聞出版社) 石川和幸「生産管理」(日本実業出版社) 他				
関連科目	経営学入門、プロジェクトマネジメント論、eビジネスマーケティング論				

授業の目的	本ゼミでは、製造業やITビジネスに携わることを希望する人を対象とし、開発管理、生産管理や品質管理等の経営工学の知識を学び、実践的な技術マネジメントのスキルを身に着ける。その上で、具体的な製造業やITビジネスにおける問題解決の事例研究を行い、研究論文としてまとめることを最終目的とする。 ゼミナールⅡBでは、自分の関心のある製造業における問題発見に着手するとともに、経営工学の基礎知識を身に着け、経営工学的手法により問題解決手法を学ぶことを目的とする。
授業の概要	本ゼミでは、製品開発、生産管理や品質管理等の基礎的な技術マネジメントについて学んだ後、各自が関心のある特定の企業や業界における、具体的な製品開発、生産管理や品質管理に関する問題点を見つけ、経営工学的手法に基づいて実践的な問題解決を行う能力を身に着ける。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： ゼミナールⅡAにおける課題と今後の進め方についてのオリエンテーションを実施する。経営工学に関する基礎知識に関する講義を行った上、各自の研究分野の対象となる業種や企業について確認を行う。	資料配布プレゼン資料作成用PC必要
第2週：  各自、特定企業における具体的な製品開発、生産管理や品質管理に関する調査を発表し、その中から経営工学的手法により解決すべき問題点を議論により探っていく。	各自、研究対象の企業について与えられた課題を事前調査検討すること。(1h)
第3週：  各自、特定企業における具体的な製品開発、生産管理や品質管理に関する調査を発表し、その中から経営工学的手法により解決すべき問題点を議論により探っていく。	各自、研究対象の企業について与えられた課題を事前調査検討すること。(1h)
第4週：  各自、特定企業における具体的な製品開発、生産管理や品質管理に関する調査を発表し、その中から経営工学的手法により解決すべき問題点を議論により探っていく。	各自、研究対象の企業について与えられた課題を事前調査検討すること。(1h)

<b>第 5 週 :</b>	各自、研究対象の企業について与えられた課題を事前調査検討すること。(1h)
各自、特定企業における具体的な製品開発、生産管理や品質管理に関する調査を発表し、その中から経営工学的手法により解決すべき問題点を議論により探っていく。	
<b>第 6 週 :</b>	各自、研究対象の企業について与えられた課題を事前調査検討すること。(1h)
各自、特定企業における具体的な製品開発、生産管理や品質管理に関する調査を発表し、その中から経営工学的手法により解決すべき問題点を議論により探っていく。	
<b>第 7 週 :</b>	各自、研究対象の企業について与えられた課題を事前調査検討すること。(1h)
各自、特定企業における具体的な製品開発、生産管理や品質管理に関する調査を発表し、その中から経営工学的手法により解決すべき問題点を議論により探っていく。	
<b>第 8 週 :</b>	各自、研究対象の企業について与えられた課題を事前調査検討すること。(1h)
各自、特定企業における具体的な製品開発、生産管理や品質管理に関する調査を発表し、その中から経営工学的手法により解決すべき問題点を議論により探っていく。	
<b>第 9 週 :</b>	各自、研究対象の企業について与えられた課題を事前調査検討すること。(1h)
各自、特定企業における具体的な製品開発、生産管理や品質管理に関する調査を発表し、その中から経営工学的手法により解決すべき問題点を議論により探っていく。	
<b>第 10 週 :</b>	各自、研究対象の企業について与えられた課題を事前調査検討すること。(1h)
各自、特定企業における具体的な製品開発、生産管理や品質管理に関する調査を発表し、その中から経営工学的手法により解決すべき問題点を議論により探っていく。	
<b>第 11 週 :</b>	各自、研究対象の企業について与えられた課題を事前調査検討すること。(1h)
各自、特定企業における具体的な製品開発、生産管理や品質管理に関する調査を発表し、その中から経営工学的手法により解決すべき問題点を議論により探っていく。	
<b>第 12 週 :</b>	各自、研究対象の企業について与えられた課題を事前調査検討すること。(1h)
各自、特定企業における具体的な製品開発、生産管理や品質管理に関する調査を発表し、その中から経営工学的手法により解決すべき問題点を議論により探っていく。	
<b>第 13 週 :</b>	各自、研究対象の企業について与えられた課題を事前調査検討すること。(1h)
各自、特定企業における具体的な製品開発、生産管理や品質管理に関する調査を発表し、その中から経営工学的手法により解決すべき問題点を議論により探っていく。	

第14週 :	各自、研究対象の企業について与えられた課題を事前調査検討すること。(1h)	
ゼミナールⅡにおいて、今まで調査したこと、どのような問題があつたか、その問題を経営工学のどのような手法で解決しようとしたかをまとめ、プレゼン資料を作成する。		
第15週 :	プレゼン資料(各自:1h)	
ゼミナールⅡのまとめとして、ゼミ内でのミニ発表会を行い研究成果の中間発表を行う。また、今後のゼミナールⅢにおいて研究を続けるための課題を確認する。		
第16週 :		
予備		
授業の運営方法	(1)授業の形式 (2)複数担当の場合の方式 (3)アクティブラーニング	「演習等形式」「アクティブラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	製造業やIT関連産業に興味があること。
【知識・理解】	将来、製造業やIT産業に従事するための基礎知識
【技能・表現・コミュニケーション】	製造業マネジメントのためのコミュニケーション能力を有する。
【思考・判断・創造】	講義、演習を通して製造業における問題解決をイメージできる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	60点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			30点	
【思考・判断・創造】 ※「考え方」を含む。			30点	
(「人間力」について)				
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に發揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安
------------------------------------

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	各自が決めた企業に関する調査報告。期末におけるプレゼン内容。 出席状況・受講態度も考慮する。
発表・その他 (無形成果)	ゼミにおける発表と討論への参加状況。